

皇女 女 征 服



R18
ADULTS ONLY





突然の両親の
計報にもめげず
まず弟の身を
案じるとはさすがは
皇族の女だな

しかし皇帝擁立が
そんな気軽なものでは
無いことなど
お前もわかって
いるだろう

だが折角の姫の頼みだ
それ相應のもので
養ってもらえば
私として協力するのは
やぶさかではないぞ

現皇帝と皇子が
突然の事故で崩御し
繰り上げて継承権
第一位となつてしまつた
幼弟ユアンの後ろ盾に
なつて欲しい

オルネリーゼ皇女が
叔父であり貴族院の
有力者でもある
グレアム公に
嘆願した内容は
そんな内容だつた

だがグレアム公が
その手始めに見返りに
求めたものは
純潔の身体だつた

いいのかね？
これは私としても
譲歩しているのだよ



や、やめてください！
おじさま！

私はそんな
つもりでは……！

え……？



なあに、継承権など
帝国議会ごと
私自らが乗り出して
掌握してしまえば
いいだけのことだ
わざわざ傀儡を
用意するまでもなく、な

その場合もはや
お前たちは用済みだ
お前の弟である
ユアンは処刑され――

お前自身は……
女に生まれて
きたことを
後悔すること
なるだろうな

な……

そこでもう一度
先程の確認だ
どうするかね？

……わかり……
……ました……



それではオルネリーゼよ
自らの言葉によって
私への恭順の意を
示したまえ

帝国第一皇女
オルネリーゼ・
ユル・ウリアは……
グレアム・ボダム
公爵閣下への
感謝の意を
示すとともに

この身体……を……
閣下に捧げる……
ことを……神に……
誓い……ます……

まだ……何も知らない
未熟者ですが……
公爵閣下の教育のもと……
どうぞ……ご指導……ご鞭撻……
よろしくおねがい……
いたします……

ハハハ、いいだろう
オルネリーゼ！
その覚悟に免じ
お前との約束
私も果たすことを
誓おうではないか

ありがとう……
ございます……

ほお……

ドレスの上からでも
分かっていたことだが
歳の割に立派な
モノではないか

………
お褒めいただき…
ありがとうございます…
ございます………

うむ、すべて脱いだら
こちらに来るがいい
オルネリーゼ

我が寵愛を
授けてやろう

全く：
こんないやらしい
身体に育ちおつて：
毎日会う
王宮騎士たちには
目の毒だろうに

そのような…
ことなど…

無自覚とは
罪な女だなお前は
だからこそ
穢し甲斐がある
といえるが

そこ…あつ！
だ、だめ…です…
摘まないで…

ひうっ

ドクッ

ザン
ザン

ムニョ

反応もいい
これは本当に
楽しめそうだな

お、おじ…さま…
なにか背中…
当たって…
こここれは…

フフフ…
怯えなくてもいい
それがこれからお前を
可愛がってやる
モノなのだからな

せっかくだ
まずはこの胸と
その可愛い口で
奉仕をしてもら
うとするかな



んっ!
んんっ!

ひどーんぐっ!

さあ受け取るがいい!

お前には男を誑かす
才能がある
そんな淫乱娘には
しつかりと男の味を
教え込まないと



いかがが…
でしようか…
ん…ちゅ…

まったく…
初めてとはとても
思えんな

どうせ一人で
練習でもして
いたのだろう?
この淫乱娘が



んん—っ!!
ぷはっ—!

あっ!やあ…
顔に…いやあ…

マーキングだ
塗り込んでやるからな
口の中のものも
ちやんと飲むんだぞ

ん…く…
ケ、ケホッ
ケホ、ケホッ!

ふっ、飲むのは
これからの勉強だな
それではそろそろ
お前の初めてを
味わうとするかな

は…い…



フフフ、そろそろ
虐めるのは
やめておくか

貴方が…
こうしろと…
言ったのに…
う、ううう…

ククク、こんな姿
帝国の騎士共が
みたら発狂する
かもしれんな
自分の崇める主君が
雌犬のような格好で
男のモノを要求
しているのだからな

こう…でしょうか…



あ—おじさまが…
入って…く…う…
あ…あ—ああつ!

う、あああつ!



私のモノは
大きいからなぞ
力を抜くんだぞ

私は無理やり
固いモノを
こじ開けるのも
好きなのだからな

わかり…ました…

ひぐっ！
おじ…さま…
もう少し…
やさし…く…

おお、すまんすまん
処女にしては
具合が良くて
思わず娼婦のよう
扱ってしまったよ

ククク、しかし
やはり母娘だ
な
膣の具合も
よく似ている

酷い…

…えっ…？
そ、それは
どういう…？

あいつはなかなか
奥手だったから
色々教えたよ
やったものだぞ

勿論処女も
お前と同じように
私が貰ってやったぞ

お前の母であるアンリとは
お前の父と結婚するまでは
私が可愛がつっていたな

う、うそ…
母と貴方は
兄妹じゃ…

その通りだ
あいつは幼い頃から
私のものだったのに
まさか皇子に
寝取られるとは
思ってもみなかったぞ

そんな...
お母様...

ケダモノ...
貴方は...本当の...
ケダモノ...です...

フハハ、そのとおりで
しかし、アンリもお前も
その家の淫蕩の血を
引いているのだぞ

そしてアンリ亡き今
まだ幼い弟より先に
まずお前がこの家の
次代を宿さねばな

え...
そ、そんな...
ま、まさか...!

お、叔父様?
や、やめて!
やめてくださいっ!

いくぞ!
アンリの娘よ
我が種で
孕むがいい!

だがしがかしの元には
戻つてきたからには
もう手放したなど
しないからな

孕めッ！
オルネリーゼ！
我が種で孕めっ！

おじさまっ！
いいやああっ！
うあああ—！！

ああっ！



妹であるアンリも
良かったが以上
お前はそれぞ
だったぞ

やはり血が近い
というのはい
相性が良い
のだからうな

我が娘——
オルネリーゼよ

う……そ……
叔父……様が……お父……様……
なん……て……そんな……の……
う……そ……う……そ……



フフフ……
二人きりのときは
父と呼んでも良いぞ
そして約束通り
これからお前たちは
「家族」として
支えてやるとしよう

ND…
ND…

お前の弟と——
これから
生まれてくる
子供達とともにな

あ……あ……
あ……あ……



皇女征服

初版発行：2023/12/31

発行元：セブンデイズホリデイ

著者：古我望・篠川あるみ

連絡先：7dh@howlingmine.com

印刷：プリントネット株式会社

2023 SEVENDAYSHOLIDAY